

心の輪を広げる体験作文

【小学生区分】優秀作品

千葉市立川戸小学校 二年

ばあばの車いす

中村 睦

わたしのばあばは、車いすです。からだの右がわがうごきません。

ばあばの車いすをおすのは、お母さんやお姉ちゃんです。とてもおもしろいし、車いすの前のあんぜんも気をつけないといけないからです。お母さんやお姉ちゃんを見て、いつも、いいなあ、わたしもおしたいなあ。と思っていました。いつもどうやったら上手におせるかなあとお母さんやお姉ちゃんをかんさつしていました。そんなとき、やっとわたしのでばんがきました。その日は、ばあばとお母さんとわたしの三人でスーパーへ行っていました。お母さんは、かいものカートとばあばの車いすりょう手をつかっておしていました。

「わたしがおすよ。」

と言って、ばあばの車いすのうしろに立ちました。すぐドキドキしました。するとばあばが心ばいそうに言いました。

「だいじょうぶ？おもしろいよ？」

わたしは、

「だいじょうぶよー！」

と思いつきおしました。すると思っていたよりはよくなりました。

「こわいよー。」

とばあばが言いました。わたしもこわかったです。車いすをゆっくりおすことにしました。

また、わたしは車いすをおしているとばあばの前がよく見えません。だからばあばに

「こつちとか、ストップって言ってね。」

と言いました。ばあばは

「わかったよ。」

と言っていろいろおしえてくれました。

ばあばの車いすをおすのは大へんだし、とてもせきにんがあります。これからばあばといっしょにいっしょうけんめいれんしゅうして上手になりたいです。ばあばといっしょにがんばります。